

# 思考コードで入試問題を徹底解剖！

(学校が求める思考力が見えてくる)

2019年度 桜蔭(国語)

思考コードの割合比較

			2018年	2019年	2018年	2019年	2018年	2019年
変換操作	全体関係	変容 3	A3		9%	B3	24%	C3
複雑操作	カテゴライズ	複雑 2	23%	A2 23%	32%	B2	18%	C2
手順操作	単純関係	単純 1	14%	A1 35%	22%	B1		C1
(数)	(言語)	合計	37%	58%	63%	42%		
			A 知識・理解思考		B 論理的思考		C 創造的思考	
			知識・理解		応用・論理		批判・創造	

\*全設問数に対する割合を算出しています

知識・理解に関する出題がやや増加し、相対的に論理的思考の問題数が低下したため、一見すると取り組みやすい問題だと思われるかもしれませんが、しかし、文章の難度が高く、しかも小説文は時代背景や場面の状況を理解することが難しいものであったために、全体としてはかえって難度が上昇したと言えます。

## ☐ 説明文 A1、B2～B3

ゴリラが形成する社会の観察を通じて、ゴリラの社会と現代の人間社会との間での時間概念を比較した文章です。人間社会での時間概念の変化についても理解する必要がある難度の高い文章です。

問三は、文章中の抽象的な表現を想定し、具体的に記述する言葉の変換が求められます。問四は、指示語の内容が書かれた部分を理解し、それに基づいて具体的内容を記述する複合的な思考力が必要です。問三、問四は、問五の説明のカギとなる問題です。問五は、文章全体を通じた筆者の主張にあたり、本来の人間のあり方と現代社会を比較し、人間は本来どのように時間を使うべきなのかを含めて説明することが求められている点で、かなり複雑な論理的思考と文章表現力を必要とします。

## ☐ 小説文 A2、B2～B3

沖縄の島に不時着した特攻隊の乗組員と島の人々との心の通じ合いを通して、さまざまな形で戦争と関わる人々のかっとうと理解、戦争が生み出す理不尽さを表現した文章です。

問二は、線部の動作のもととなる言動が書かれていた一連の部分をきちんと理解することが求められています。単純な感情ではない点に気をつけます。問三は、練習機が用いられる点、特攻隊は生きて帰らないという点で、日本が戦争末期に武力すら十分でなかった状況を表しています。問四から問六は、特攻隊という使命を果たせず苦しんでいた乗組員を島人の言葉が救い、特攻に志願する人に女学生たちが渡した人形や、島人が、出征する人に言う「お国のため」という言葉が、死んで神になるということ

をたたえるものであったことに気づかされる、という主題に近い一連の内容を問いにしたものです。一つ一つの言動から登場人物の心情を理解し、できごとの前後での心情の変化を考えるという特に複雑な思考が求められています。